

医療系大学での臨床実習における遠隔授業の取り組み ～模擬症例を用いた推論構築のフレームワーク～

■ 本日の内容

- I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過
- II. 学内実習プログラムの枠組み
- III. 学内実習プログラムの紹介
- IV. 今後の方向性

杏林大学 保健学部 理学療法学科 跡見友章

本日の内容:

- I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過
- II. 学内実習プログラムの枠組み
- III. 学内実習プログラムの紹介
- IV. 今後の方向性

I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過

■ 学外実習の概要(総合臨床実習)

- ① 対象学年:理学療法学科4年生
- ② 単位数:14単位
- ③ 実施期間: **学外の医療機関・介護施設における臨床実習**
 - 総合臨床実習Ⅰ期:4月13日～6月6日(8週間)
 - 総合臨床実習Ⅱ期:6月15日～8月1日(7週間)

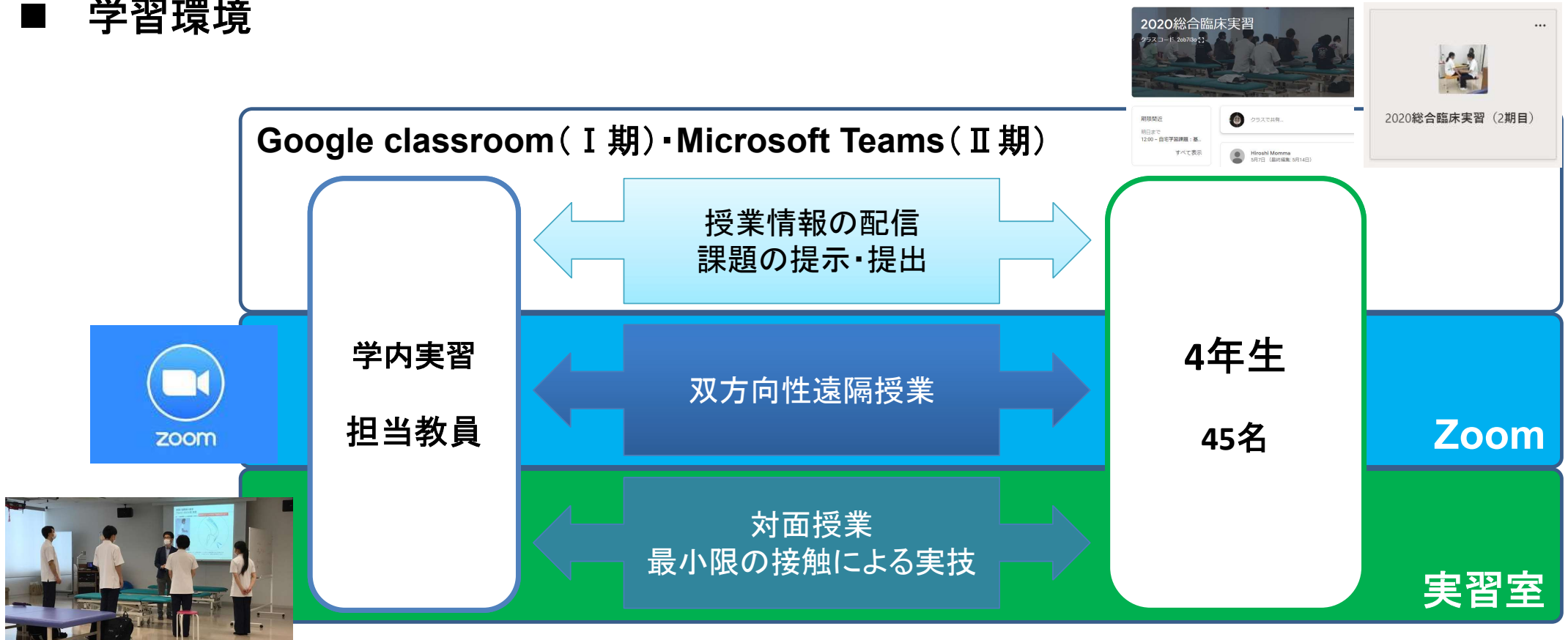
 学外実習の中止により学内実習へ移行

I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過

月	日	イベント	学内実習対応
3月	30日	総合臨床実習Ⅰ期:学外実習中止を決定	学内実習プログラム検討WG立ち上げ
4月	2日		Google classroom:「総合臨床実習」開設
	7日	緊急事態宣言	
	13日		総合Ⅰ学内実習(前半)開始
	28日	総合臨床実習Ⅱ期:学外実習中止を決定	
5月	1日	Zoom Pro 利用開始 (保健学部におけるオンライン授業ガイダンス開催)	
	8日	緊急事態宣言延長	
	11日		総合Ⅰ学内実習(後半)プログラム開始
	13日		
	28日		Microsoft Teams:「総合臨床実習(2期目)」開設
	6月	15日	
	19日	首都圏における移動の緩和	
	22日		分散登校による学内実習プログラム(実技)開始

I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過

■ 学習環境



本日の内容:

- I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過
- II. 学内実習プログラムの枠組み**
- III. 学内実習プログラムの紹介
- IV. 今後の方向性

Ⅱ. 学内実習プログラムの枠組み:

■ 学外実習の概要(総合臨床実習)

① 対象学年:理学療法学科4年生

② 単位数:14単位

③ 学外実習の評定方法:

➤ **実習報告書**, 提出課題(症例要約・デイリーノート), 実習報告会

➡ 実習報告書に対応するプログラムの検討

Ⅱ. 学内実習プログラムの枠組み:

■ 実習報告書との対応

1. 「職業人としての適性」(12項目)

- ① 服装・髪型・髭・化粧・爪・アクセサリなど
- ② 遅刻・欠席の有無(詳細は出欠表に記入のこと)
- ③ 提出物の期限厳守
- ④ 予定・約束の時間厳守
- ⑤ 理学療法業務の見学時の態度
- ⑥ 学ぶ姿勢
- ⑦ 病院・施設関係者への言葉遣い
- ⑧ 患者・利用者への言葉遣い
- ⑨ 不明な点・疑問点の質問(業務上必要な事柄)
- ⑩ 不明な点・疑問点の質問(理学療法に伴う質問)
- ⑪ スケジュールの管理
- ⑫ 学生自身の体調管理(食事・睡眠など)

2. 「理学療法の実施」(20項目)

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 情報の収集 | ⑪ 目標設定 |
| ② 検査・測定項目の選定 | ⑫ 治療プログラム立案 |
| ③ 検査・測定の意義や目的の説明 | ⑬ 治療指針の説明 |
| ④ 検査・測定の実施 | ⑭ プログラム実施 |
| ⑤ 検査・測定時の安全への配慮 | ⑮ 効果判定 |
| ⑥ 結果の記録 | ⑯ 効果の説明 |
| ⑦ 各検査・測定結果の解釈 | ⑰ 必要に応じたプログラムの変更 |
| ⑧ 統合と解釈 | ⑱ 症例要約 |
| ⑨ 問題点の抽出 | ⑲ デイリーノート |
| ⑩ 予後予測 | ⑳ その他の課題 |

➡ 合計32項目を設定し、臨床実習での態度・知識・経験の積み重ねを確認

本日の内容:

- I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過
- II. 学内実習プログラムの枠組み
- III. 学内実習プログラムの紹介**
- IV. 今後の方向性

職能的専門性:理学療法士

■理学療法士の職能的専門性

医師の指示のもと、身体機能の問題を改善する運動プログラム

最適な治療プログラムを作成します



理学療法士は、基礎医学に基づき、病状や理想的な身体の動きを踏まえて、その方にとって最適な治療プログラムを作成します。

痛みや麻痺の回復など物理療法を行います



「痛みの緩和」や「麻痺の回復」などの治療目的に応じて、温熱や電気などを利用した物理療法を行います。

運動療法を行います



体操や運動を行い、筋力をつけたり、バランスや持久力などの身体機能の改善を目的に運動療法を行います。

「歩く」「立つ」などの動作の改善を行います



「歩く」「立つ」「起き上がる」などの日常生活に不可欠な基本的動作能力の改善を行います。

社会復帰や自立支援のお手伝いを行います



「尊厳ある自立」と「その人らしい生活」を実現するために理学療法士は社会復帰や自立支援のお手伝いを行います。

生活のアドバイスをを行います



ご自宅などで快適に生活が出来るように、福祉機器の利用方法や住宅改修のアドバイスを行います。

Quality of Lifeを高めるための、ADLおよび社会的活動の向上を目的とした介入

日本理学療法士協会, 理学療法の日 (理学療法ってなんだろう?) パンフレット

職能的専門性:理学療法士

医療・介護領域における問題

日常生活活動(ADL: Activities of Daily Living)の水準の低下

医学的背景

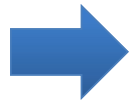
多岐にわたる身体機能や精神機能の低下に起因

社会的背景

対象者の生活様式や職業、家族構成、経済状況など

理学療法士の専門性

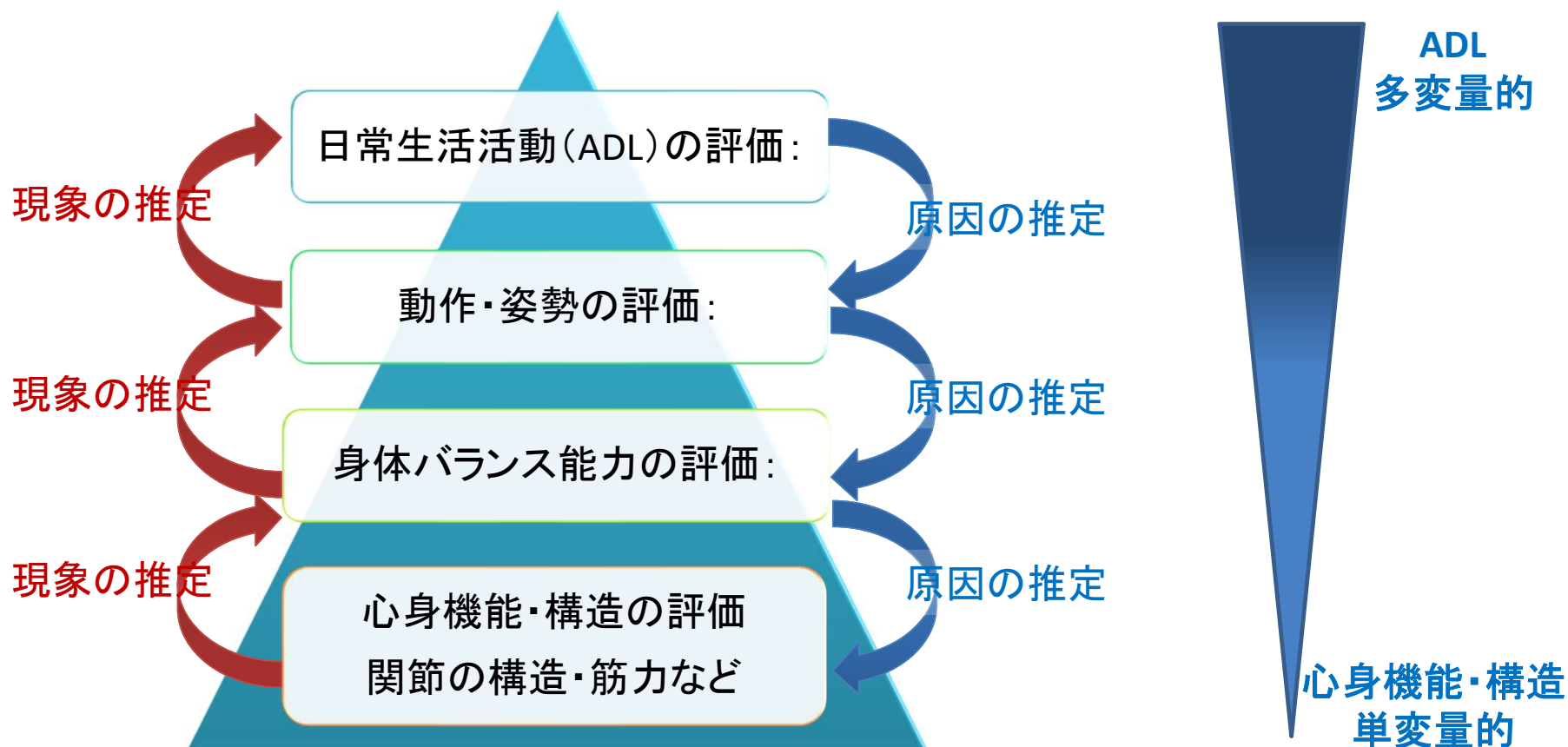
対象者のADL水準を改善するための臨床的な推論モデル
具体的なプログラムの立案と介入



推論モデルは一様ではなく
多様な変数の設定と職能的専門性に基づく推論の方向性

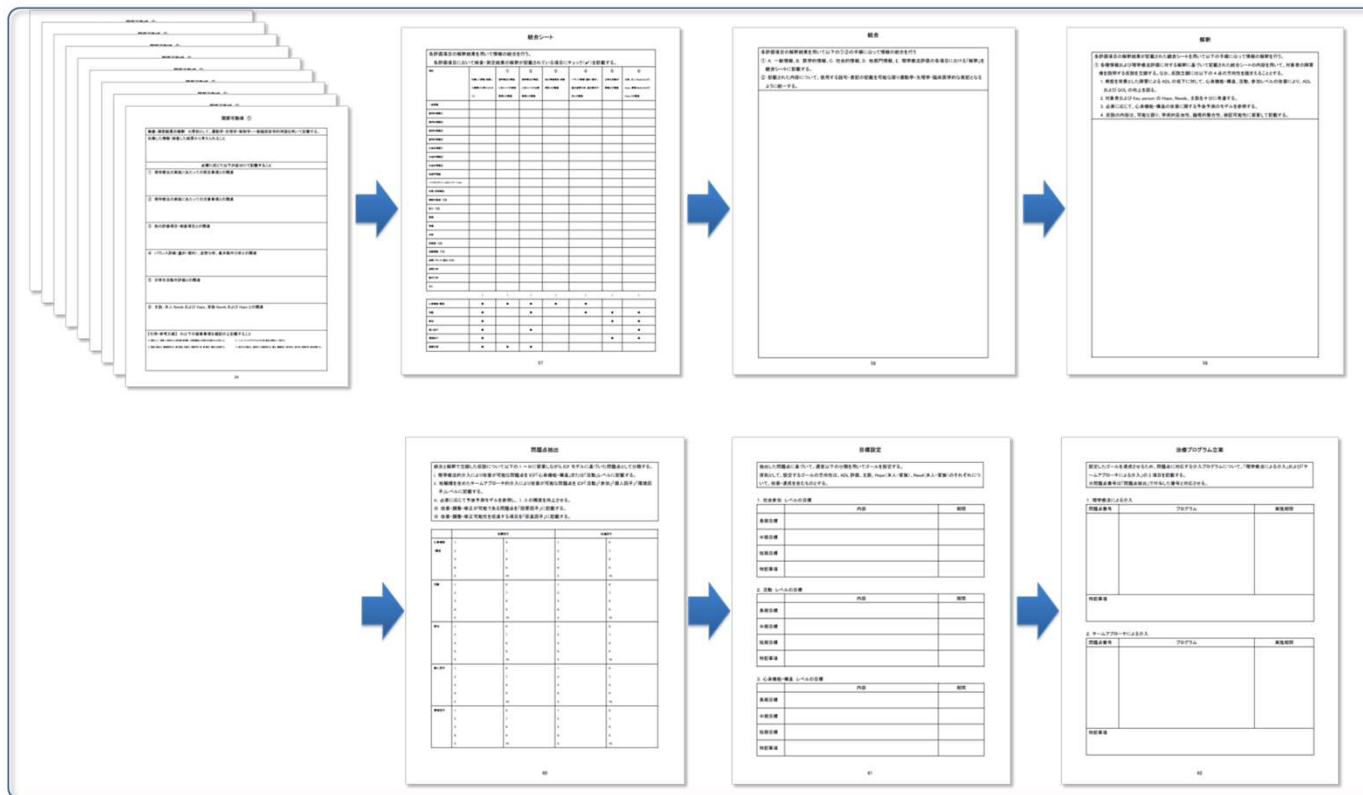
杏林大学における推論モデル ADLの低下と心身機能・構造の関係

COVID-19対応下における総合臨床実習



Ⅲ. 学内実習プログラムの紹介

■ 臨床推論演習：概要



- 授業方法：
 - ① 教員の介入
 - ② グループワーク

- 授業コンテンツ：
 - 「模擬症例ハンドブック」
- 課題：
 - 「症例報告書」ファイルの作成

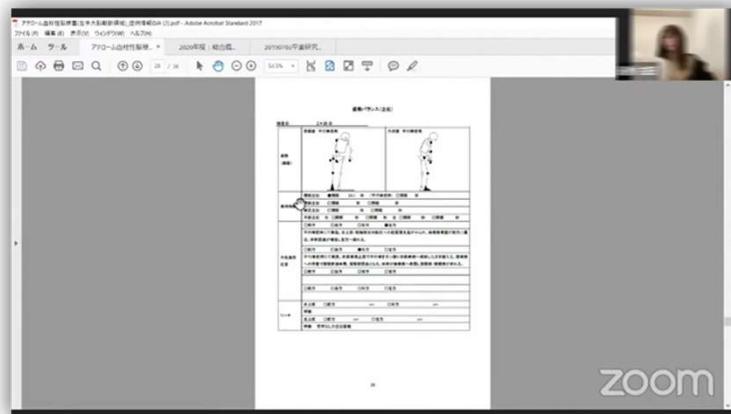


Cloud上でファイルを共有
オンラインでのファイル作成

Ⅲ. 学内実習プログラムの紹介

■ 授業場面

1) 授業コンテンツの共有



模擬症例ハンドブック:
例)アテローム血栓性脳梗塞



2) 双方向性授業

患者情報

- 右片麻痺(2-2-3)
- 筋緊張: 上肢-弛緩
下肢-高め
体幹-低め
- 失語症あり
- 感覚障害(深部感覚)
- 座位・立位:近位監視
- 移動:車いす
自走は要監視
FIM4
- 3人暮らし
- 自宅退院目標
- 介護保険未申請
- 自宅手すり不足
- PTに意欲的
やや焦りあり
- 高血圧

zoom

資料スライド・PDFの共有
パワーポイント等でディスカッションをまとめる
授業後に資料として配信

教員1名に学生2~4名

推論モデル 模擬症例を用いた取り組み

➤ 模擬症例情報を用いたシミュレーション

① 運動器障害モデル

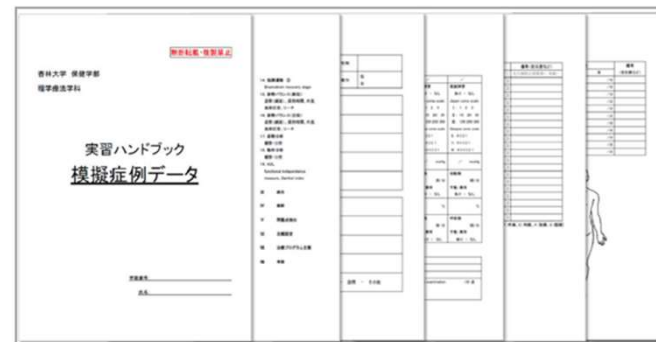
大腿骨転子部骨折 Aさん

(女性、80代前半 手術後 4day : 急性期)

関節可動域 (下肢)

検査日		Z+5 日			
関節	運動方向	参考	右	左	備考(左右差など)
例:肩	屈曲	180	180(150)[]	75(75)[P]	左大胸筋の筋緊張+、疼痛+
股	屈曲[膝屈曲位]	125	120(120)[]	60(80) [P]	術創部痛+ 左股関節前面の疼痛+
	屈曲[膝伸展位; SLR]	90	60(60) []	0(60) [P]	自動運動不可。術創部痛+ 左股関節前・後面の疼痛+
	伸展 ※	15	0(0) []	-10 (-10)[P]	左股関節前面の疼痛+
	外転	45	30(30) []	0(15) [P]	自動運動不可。左股関節外側、内側の疼痛+
	内転	20	15(15) []	0(-5) [P]	自動運動不可。 左股関節外側の疼痛+
	外旋	45	30(30) []	10(20) [P]	左股関節内側の疼痛+
	内旋	45	30(30) []	10(20) [P]	左股関節外側の疼痛+
膝	屈曲	130	130(130)[]	100(100)[P]	左大腿前面の疼痛+
	伸展	0	0(0) []	0(0) []	
足	底屈	45	45(45) []	45(45) []	
	背屈	20	10(10) []	10(10) []	

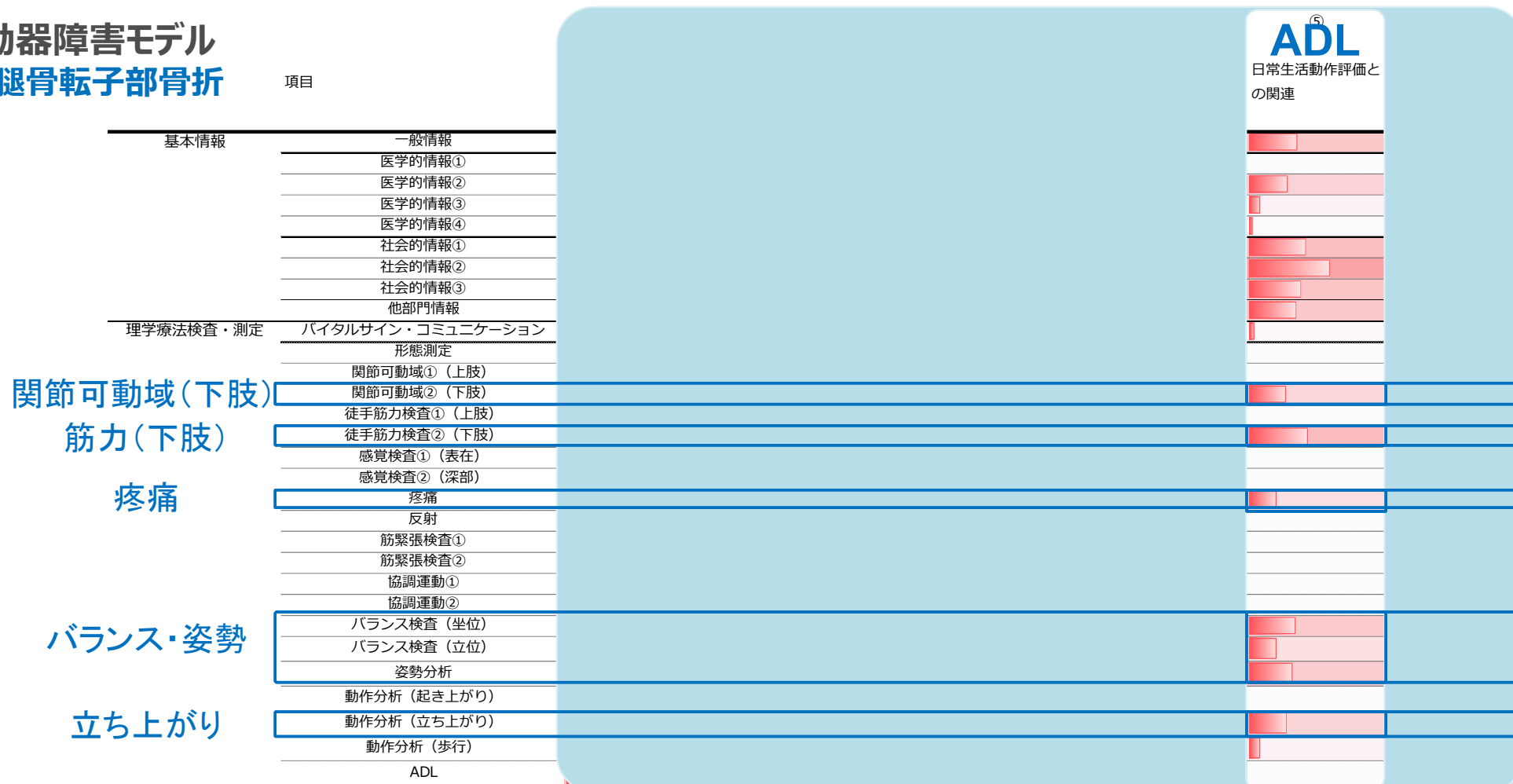
1. 医学的情報
2. 社会的情報
3. 他部門情報
4. 検査測定
5. バイタルサイン・コミュニケーション
6. 形態・肢長周径
7. 関節可動域
8. 筋力
9. 感覚
10. 疼痛
11. 反射
12. 筋緊張
13. 協調運動
14. 姿勢バランス
15. 姿勢分析
16. 動作分析
17. ADL



推論モデル 構造の可視化

COVID-19対応下における総合臨床実習

① 運動器障害モデル 大腿骨転子部骨折



本日の内容:

- I. 学外実習の概要とCOVID-19対応の経過
- II. 学内実習プログラムの枠組み
- III. 総合臨床実習 I (前半・後半)の紹介
- IV. 今後の方向性

IV. 今後の方向性:

■ COVID-19対応のNew Normalにおける臨床実習教育

1. オンラインで共有可能な教育コンテンツのライブラリ化
2. 推論構築のフレームワーク化とオンライン対応による臨床現場との共有
3. 「臨床現場でしか得られない経験」の項目化

共有したいこと

1. オンライン授業コンテンツ:
2. ICTを用いた授業に関する工夫:

杏林大学
理学療法学科

アンケート入力フォーム

